

『彩の国 SC クラブ経営塾プロジェクト』レポート

～生業にすることを旨とする、クラブマネージャーによるレポート～

「特定非営利活動法人 SCORE 総合型地域スポーツクラブ S PROJECT F.C」

今回、お邪魔した渡邊さん達「特定非営利活動法人 SCORE 総合型地域スポーツクラブ S PROJECT F.C」のクラブハウスは、もとは豆腐屋さんで、懐かしくあったかい感じのする古民家風の建物。落ち着いた雰囲気の中で、お話をうかがうことができた。

今回事前に渡邊さんから行ったヒアリングでは、月次収入は平たくすると「約200万円」ということだった。その話を聞き「収支決算、月次収支」について、個人的に大変関心を持っていた。というのも実際に自分達のクラブでは、定期プログラム参加者は400～500名程。会費、参加費、事業収入で月120～130万、イベントなどの事業などがある月で併せて150万円くらいだったからだ。月の収入が約200万（年間で約2500万）というのは、自立の『第一段階』として、今まさに目指すラインである。自分達のクラブの場合は、今の事業や体制で単純に計算すると、定期会員が650名～700名いれば、そのラインとなるが、そのぶん活動が増え、謝金や、人件費など管理コストもかかるため、工夫する手立てについては常々考えている。

渡邊さんたちは、「協賛」と「助成金（制度助成）」をうまく活用していると感じた。もともとは、オリジナルの広報誌による協賛。現在は広報誌発行していないものの、有名企業とのコラボイベントを開催し、それを上手に活用し、協賛収入を得ているようだ。いくつもの大手企業からの協賛を受けていた。個人的に感じたのは、数十万円ほどの協賛というのも、ひとつの協賛をうけやすいコツなのかもしれない。ちなみに渡邊さんは、以前不動産・アパート関係の営業職をされた経験があり、その仕事で培われた高い営業力を持っている。そこで出会ったメンバが集まり現在のクラブ運営の中心となっているとのこと。そのバイタリティや、大手だろうと構わず飛び込みで営業をかけるという、その姿勢には刺激を受けた！！数十万円という企業協賛は、自分達のクラブも実績はあるが、大手企業何社からも協賛を受けているのは驚きだった。また大手は難しいという思い込みも改めねばと思った。

そして助成金（制度助成）については、人材教育(研修)に関するものを受けているとのことだった。人材教育では企業で働けるようなスキルなどを身につけていく。企業で働けるような人材を育てる仕組みをつくっていくことで、結果的に自分達の組織の人材育成にもつなげているところは、さすがである。一石二鳥いや三鳥かもしれない。さらに評価していく仕組みも今後つくっていくとのこと興味深い。

人材発掘・育成に関する助成金を活用する一方で、銀行融資をきちんと受けることを前提とし、信用調査関連のシートを利用し、コンサルを受けながら活動を行っていることも、今までの見てきた総合型地域スポーツクラブではなかったところだ。銀行からの融資を借金と考えない。ある程度リスクをとらねば成功しない。「総合型地域スポーツクラブの多くはリスクを取らなすぎ」という渡邊さんの言葉は印象的だった（個人的には同感！）。また渡邊さんは、最近ある製造企業のオーナーになり業務改革にあたっており、その経験が多分に活かされているようだった。

クラブの定期活動については、現在底辺普及という側面からの活動が多く、会費も低めに設定しているが、今後は「育成」に焦点をあてた付加価値の高い活動も考えており、それらの活動については、ある程度の参加費を設定していきたいとのことだった。

渡邊さんは、クラブの地域貢献は地域雇用の機会づくりとだと言う。選手のセカンドキャリアの場となること、そしてクラブが主婦のパートをはじめとした雇用の場となり、子ども達が学校から帰りにクラブハウスなどに立ち寄り、そこで親子の会話がはずむ、そういうクラブにしていきたいとのこと。尚現在、有給専従職員はいるが、渡邊さん自身はオーナー的な経営者としてクラブに関わっているようだ。今後はクラブからも対価をえることを考えているようだ。ボランティアの参加については、応じた役割を任せていきたいとのことだった。いろいろ刺激と学びがあったが、渡邊さん流の総合型地域スポーツクラブ経営は面白くこれから何をやるのかワクワクして気になる！総合型地域スポーツクラブ経営者に必要な力のひとつに「周りをワクワクさせる力」があると、自分は常々思っているが、これからも渡邊さん達の動向に注目したい！！

プロジェクト担当 ふじみ野ふあいぶるクラブ 篠島幹昌

